

編集後記

2012年7月から本学会誌の企画幹事を務めてまいりましたが、昨日ようやく引継ぎを終えてホッとしている次第です。幹事になった当初は、果たして私にこの役目をこなすことができるだろうかと非常に心配したものです。いろいろと至らない点もありましたが、何とか1年間無事に務められたのはひとえに編集委員、そして学会事務局の皆様のご助力があったことです。皆様に感謝の言葉をお伝えする機会がありませんでしたので、この場をお借りして御礼申し上げます。

この仕事を通じて私自身にとっての最大の収穫は、自分の専門分野以外の研究の最新の話題や、他分野の研究者の方々と出会えたことです。その中には自分の研究とは関係がなくても、個人的な趣味や関心事に関連した記事がありまして、例えば液中プラズマを用いて廃油から水素を生成する話や、レーザーを用いたエンジン着火の記事は、私が好きなロータリーエンジン(RE)とも関係があり以前から関心があったのですが、そういった話題が偶然自分の任期中に企画として出され、その編集過程に参加できたのは幸

運でした。また、なぜか編集委員にはマイナーなRE車乗りが何人かいたのですが、それも何か星のめぐり合わせだったのでしょうか。

さてREは当初、振動が少なく、コンパクトながら高出力な夢のエンジンとして開発が始まったのですが、実際に作ってみると様々な工学的な困難が判明し、結局量産化できたのはマツダだけでした。しかし、レシプロエンジンに比べ燃費改善や環境基準への適応が難しく時代の要請に沿わなくなり、去年ついに生産終了しました。私はこのREのたどった道に核融合研究を照らし合わせてしまうのです。夢の未来エネルギーと謳われて研究が始まりましたが、実際に作り始めてみると様々な困難がわかり、なかなか実現できない。また、それらを乗り越え核融合炉が完成した後も低コスト化や廃棄物量削減など、様々な要求を突き付けられ続けるでしょう。そういった課題を乗り越えるためにはやはり、かつてRE開発を牽引された方の言葉どおり「飽くなき挑戦」あるのみだと思います。この学会誌がこれからもそういった挑戦を支える研究者コミュニティの基盤であり続けるように願います。(佐竹真介)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副会長	斧 高一(推薦委員長：研究所助成)	小森 彰夫(推薦委員長：学会賞)
常務理事	室賀 健夫(総務委員長)			
理 事	安藤 晃(企画委員長)	石原 修(研究部会連絡委員長)	上杉 喜彦(支部・地区研究連絡会委員長)	
	甲斐 俊也(財務委員長)	草間 義紀	佐々木浩一	
	清水 克祐	白神 宏之	白谷 正治(年会運営委員長)	
	豊田 浩孝	永津 雅章(広報委員長)	福山 淳	
	堀池 寛	米田 仁紀(編集委員長)		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：米田仁紀(電通大) 副委員長：豊田浩孝(名大)

エディタ：安藤 晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、長友英夫(阪大)、小西哲之(京大)、佐々木浩一(北大)

編集委員：石田 學(JAXA)、井 通暁(東大)、岩本晃史(核融合研)、内田儀一郎(九大)、浦野 創(原子力機構)、大場恭子(東工大)、落合謙太郎(原子力機構)、笠田竜太(京大)、梶村好宏(明石高専)、糟谷直宏(九大)、佐々木 明(原子力機構)、柴田裕実(阪大)、清水一男(静岡大)、城崎知至(広島大)、鈴木達也(長岡技科大)、高橋和生(京都工繊大)、徳沢季彦(核融合研)、成嶋吉朗(核融合研)、長谷川 純(東工大)、長谷川裕記(核融合研)、林 信哉(九大)、菱沼良光(核融合研)、古川 勝(鳥取大)、増井博一(九工大)、松浦寛人(大阪府立大)、籾内俊毅(阪大)、山田英明(産総研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第89巻第8号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2013年(平成25年)8月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。